風土記の丘の花だより341

今、そしてこれから見られる植物（2026年10月10日）

台風や秋雨前線のおかげでたくさんの雨が降り、野山はじゅうぶんに潤いました。ついにツクツクボウシの声も聞こえなくなり、日ごとに秋の深まりを感じます。秋の花が咲いて、秋の風が吹いて、秋の虫が鳴く、やっぱり、日本にはすばらしい四季があるのですね。



３３９号でイヌコウジュを紹介したとき、よく似たヒメジソもありますよと書きました。それで、今度はそのヒメジソを紹介します。右の葉のようにギザギザ（鋸歯）が少なく、萼が鋭くなく、茎に毛が少ないのがヒメジソです。といっても、両者を並べて比べない限り、どっちがどっちかわかりにくいですね。別に区別できても何の役にも立ちませんが、分かるとなんかちょっと嬉しいですね。





今年もオケラの花がきれいに咲きました。この写真は万葉植物園で撮ったものですが、前山Ａ地区の自生株も健在です。万葉集には「恋しけば　袖をも振らむ　武蔵野の　うけらが花の　色に出なゆめ」という歌が残っています。私のことが好きでも、その時は私から合図するから、周りの人に分かるような目立ったことはしないでね　というような意味でしょうか。真っ白な花は野外ではよく目立つので、そのオケラの花に例えてこんな歌が詠まれたのでしょう。「うけら」とはオケラの古名です。



万葉植物園でミゾソバが咲き始めました。まだ花数は少ないですが、これからが楽しみです。ピンク色の花はとても小さいですが、きれいです。湿った場所が好きで、大池の北のオギが茂る休耕田でも大きな群落を見ることができます。ミゾソバはタデ科の植物です。秋、風土記の丘ではイヌタデやボントクタデなど、タデの仲間の花がよく見られます。一つひとつはどれも小さな花ですが、群生するととてもきれいです。その中でもこのミゾソバは葉の形が面白く、角の生えた牛の顔のようにも見えます。



旧谷山家住宅の庭でタイワンホトトギスが咲き始めました。普通、ホトトギスとよばれますが、ホトトギスは花の付き方などが違う別の種類で、余り見ることはありません。タイワンの方は茎の先の方に花が固まって咲くのが特徴です。野生でもセトウチホトトギスなど、ホトトギスの仲間はありますが、風土記の丘では私はまだ見つけられていません。早く出会いたいものです。　　松下